

UDC 622.355-1 : 543.7

M 8851

# JIS

## ドロマイトの分析方法

JIS M 8851-1983

昭和58年11月1日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

## ドロマイトの分析方法

M 8851-1983

## 正誤票

ページ	位置	誤		正	
2	表 1	酸化アルミニウム		酸化アルミニウム	
		EDTA-ビスマス逆適定法		EDTA-ビスマス逆適定法	
		区 分	許容差	区 分	許容差
		0.50 未満	0.02	0.50 未満	0.02
		0.05 以上	0.04	0.50 以上	0.04

- 備考 1. この正誤票は、第1刷に対するものです。
2. この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部材料規格課 (〒100 東京都千代田区霞が関1丁目3-1) へ連絡してください。

1984.4 日本規格協会 発行

主務大臣：通商産業大臣 制定：昭和46.3.1 改正：昭和58.11.1

官報公示：昭和58.11.29

原案作成協力者：石灰石鉱業協会

審議部会：日本工業標準調査会 資源エネルギー部会 (部会長 松本 敬信)

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部材料規格課 (〒100 東京都千代田区霞が関1丁目3-1) へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## ドロマイトの分析方法

M 8851-1983

## Methods for Chemical Analysis of Dolomite

1. 適用範囲 この規格は、ドロマイトの分析方法について規定する。
2. 一般事項 分析方法に共通な一般事項は、**JIS K 0050**（化学分析通則）、**JIS K 0115**（吸光光度分析のための通則）及び**JIS K 0121**（原子吸光分析のための通則）による。
3. 分析項目 この規格で規定する分析項目<sup>(1)</sup>は、次のとおりとする。

強熱減量 (Ig. loss)

二酸化けい素 ( $\text{SiO}_2$ )酸化鉄 (III) ( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ )酸化アルミニウム ( $\text{Al}_2\text{O}_3$ )酸化カルシウム ( $\text{CaO}$ )酸化マグネシウム ( $\text{MgO}$ )五酸化りん ( $\text{P}_2\text{O}_5$ )

全硫黄 (Total S)

注 <sup>(1)</sup> 二酸化けい素（重量法を除く。）、酸化鉄 (III)、酸化アルミニウム、酸化カルシウム、酸化マグネシウム及び五酸化りんは、それぞれ元素態で定量が行われるが、便宜上、酸化物の形で表示する。

## 4. 試料の採り方及び取扱い方

4.1 分析試料は、よくかき混ぜて平均組成を表すように注意し、また、異物が混入していないことを確かめなければならない。

4.2 分析試料は、**JIS Z 8801**（標準ふるい）の  $149\mu\text{m}$  を全量通過させるように粉碎したもの約  $10\text{g}$  を平形はかり瓶（直径  $50\text{mm}$ ）に薄く広げ、 $105\sim 110^\circ\text{C}$  の空気浴中で1時間以上乾燥した後、デシケーター中に保存したものからはかり取る。

4.3 分析試料のはかり取りには、化学はかりを用い、規定された量を  $0.1\text{mg}$  のけたまで読みとる。

---

引用規格：**JIS K 0050** 化学分析通則

**JIS K 0115** 吸光光度分析のための通則

**JIS K 0121** 原子吸光分析のための通則

**JIS K 8005** 容量分析用標準試薬

**JIS K 8006** 試薬の含量試験中滴定に関する基本事項

**JIS R 1306** 化学分析用磁器燃焼ポート

**JIS R 1307** 化学分析用磁器燃焼管

**JIS Z 8401** 数値の丸め方

**JIS Z 8801** 標準ふるい